

「認知症の人の行動制限せず安全守りたい」

行方不明防ぐ「模擬バス停」



同和園の入り口に設置されたバス停。周囲は模擬バス停

京都市伏見区の高齢者福祉施設が、敷地内に「模擬バス停」を設置した。時刻表を備えているが、路線バスや送迎バスが止まる訳ではない。施設によると、認知症の人にやさしく働きかけ、行方不明になるのを防ぐ狙いがあるのだという。

伏見の高齢者施設 敷地内に設置

バスは来ず、待つ間に声掛け

利用者の自由を尊重し、元来な人が散歩や買い物ができるように向や鍵を掛ける、職員が見守る形に対応している。ただ認知症の人も多く、この3年間で計3回、施設外へ出て夜まで数時間、行方が分からなくなることもあったという。

行動を制限せず、利用者の安全を守ることを目的として、施設からバス停がなくなるといったことがあったという。ドイツなど欧州で効果を上げているという「模擬バス停」。認知症の人は過去の習慣からバス停があれば乗ってほしいとベンチで待つ傾向があるという。その間に職員が声を掛けたり、外出する気持ちが薄らいだりすることが期待できるとい

同バス 時刻表		
時刻	日曜日	土曜日
9	10	40
10	10	40
11	10	40
12	10	40
13	10	40
14	10	40
15	10	40
16	10	40
17	10	40

模擬バス停に貼られた時刻表。来訪者からも「本当に来るの」と問い合わせがあるという

は「ナッツ」等へ誘導するなどの一環でも行われる。バス停は京都市交通局に協力を求め、図案を定めた本物のバス停を無償で譲り受けた。その後、施設の職員が本物と間違わないように「市バス」の文字を「同バス」に変更する加工工。「ベンチに座ってお待ちください」と書いた時刻表も貼って再生させた。

同園は「効果の有無はまだ分からない」としつつ、ベンチで休憩する利用者も職員が声を掛けたり、園会に来た家族と座って園内の自然を楽しんだりする様子が見られているという。「高齢者ホム」(同和園)の管理責任者 松井久雄さんは「(69)は「閉じ込めるケア」は基本的に考えられない。本物ではなく、うそをつくことになって心苦しい面もあるが、行方不明を防ぐことには少しでもつながるかな」と話していた。